

本書の特色と活用法

語彙力をつけるには、漢字力を高めるのが近道である。なぜなら、漢字には、さまざまな語彙を結びつける働きがあるからだ。

一例を挙げよう。入試でよく出題される漢字に「繁」がある。この漢字は、他の漢字と結びついて、「繁栄」「繁華」「繁殖」「繁盛」「繁茂」「頻繁」といった、さまざまな熟語を生み出す。と同時に、これらの熟語での「繁」は、数が増えるとか、数が多いとかといった意味を一貫して表している。であれば、これらの熟語を別々に覚えるよりも、「繁」という漢字で結びつけて覚えた方が効率がよいではないか。

その効率のよさを実際の学習の中で生かすには、どうすればよいか。まず考えられるのは、一つ一つの漢字を入り口として、それを含む語をまとめて学習することだが、それだと、漢和辞典をそのまま読

んでいるようで、リアルさに欠ける。

入試では漢字は文の一部として出題されるのだから、入り口は文である方が、適切だろう。そこで、ある文の中で漢字を学習しつつ、そこに使われている一つ一つの漢字の意味が理解でき、さらにはそれらの漢字が使われた他の語についても触れられるような解説が付いているのがよい、ということになる。

本書は、その点に留意して編集された、従来になり新しいタイプの漢字問題集である。その主な特徴は、以下の六つである。

①入試の傾向を元に、約二四〇〇語を精選

過去八年間の大学入試に出題された約一万問をデータ化。それを元に、入試対策の上で重要と思われる二二六九の語について、問題を作成した。

②漢字の意味を重視した、丁寧な意味説明

各問の左脇に示した意味説明では、漢字一つ一つの意味を重視し、下段の解説と合わせ読むことによって理解がさらに深まるように工夫した。

③漢字の理解と語彙力強化を助ける、豊富な解説

各問の下に四〇字程度の解説を設け、それぞれの漢字の意味を説明するとともに、それらの漢字を含む他の語の使用例を掲げた。

④実際の入試に近い形の実戦テスト

入試での出題率が高い語の読み書きを、実際の入試に近い形の文で確認できる「実戦テスト」を各章に付した。総計二七五問ある。

⑤間違えやすい漢字を集中して学習

通常の書き取りと読みの問題のほか、同音異義語・同訓異字・形が似た漢字については特に章を設けて集中的に学習できるようにした。

⑥四字熟語・慣用句・故事成語などもカバー

各章末のコラムや巻末「漢字について」も合わせ、漢字についての知識を深められるようにした。

語彙力を高めるのに必要なのは、とにかく読書をすることだと言われる。それはなぜか。ことばというものは、ドリルで一回、出会ったくらいでは、本当の意味では身につかないからだ。さまざまな文章で何度も触れることによってこそ、そのことばを正しいこなせるようになるのだ。

しかし、本書の場合、重要な語には、問題文だけではなく解説まで含めて、何度も出会うことができる。しかも、ここでは、単に語を掲げるだけではなく、あたる限り、異なる文脈を持った使用例を提示するように心掛けた。

解説に書いてあることを全て記憶する必要はない。大切なことは、煩をいとわずくり返し書いてあるから、自然と頭に残るはずだ。意味を参照しながら問題を解き、解説を読む。それを二、三回、くり返してもらえれば、数十冊分の読書にも匹敵する語彙力強化の効果があるだろう。

本書を通じて、諸君が真の語彙力を身につけてくれることを願っている。